

注意点1



理論

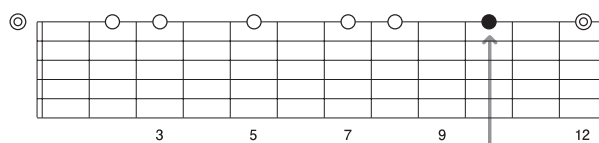
2つのマイナー・スケールの違いを確認しておこう!

このメイン・フレーズは、1弦のみを使用した1本弦フレーズである。基本的にはEナチュラル・マイナー・スケールで構成されていて、4小節目2拍目のみEハーモニック・マイナー・スケールの音(1弦11フレット)を一瞬だけ使っているのだ。ナチュラル・マイナー・スケールとハーモニック・マイナー・スケールは7th音の音が半音分異なっていて(図1)、様式美系【註】の楽曲ではその7th音に合わせてコードを変化させることが常套手段になっている。このフレーズは、1本弦上で細かく横移動していくので、演奏前に使用ポジションを頭に入れておこう!

図1 Eナチュラル・マイナーとEハーモニック・マイナー

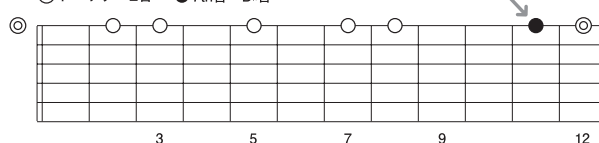
・Eナチュラル・マイナー

◎トニック=E音 ●7th音=D音



・Eハーモニック・マイナー

◎トニック=E音 ●7th音=D#音



注意点2



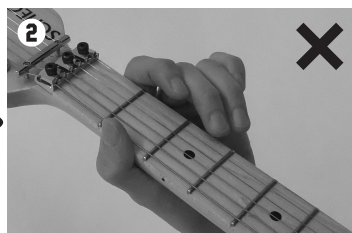
左手

低空姿勢はダメ!? 離弦は思い切り行なおう

このメイン・フレーズは1弦開放を多用するため、左手の離弦が大きなポイントになる。左手の離弦が遅れてしまうと、ブラッシング・トーンによるノイズ音が発生するので、指を思い切り離すようなイメージを持って演奏しよう(写真①～④)。実際には指は弦から数ミリ程度離せばOKだが、このような開放弦をハッキリ鳴らしたいフレーズでは、フィンガリングが多少大きくなってしまっても構わないので、しっかり離弦するように心掛けてみてほしい。速弾き時のフィンガリングは、低空姿勢が基本になるが、このようにフレーズ内容に合わせて発想を転換してみることも大切なのだ!



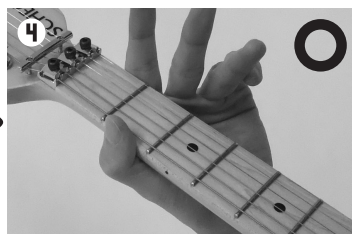
1小節目1拍目。3fから中指を離弦するが……



指をしっかり上げないと、ノイズが発生する恐れがある。



開放弦をハッキリ鳴らすことを意識して……



指を思い切り上げてみよう!

～コラム7～

教官の戯れ言

エディ・ヴァン・ヘイレンやジョージ・リントは、メイン・フレーズのような1本弦フレーズを弾く時には、ハミングバード・ピッキングを使うことが多い。ハミングバード・ピッキングとは、手首を90度近く曲げ、1弦よりも下の位置に手首を置いて横からピッキングするスタイル(写真⑤)。通常のオルタネイトではどうしてもダウンの方にアクセントが付きやすいが、ハミングバード・ピッキングを使用すると、アップ時に自然にピックが弦に引っ掛かるので、音粒を揃えることができるようだ。ちなみに、エディはピックを親指と中指で持っているので、こちらもぜひ試してみてください。

オルタネイトの音粒を合理的に揃える
ハミングバード・ピッキング

手首を曲げて弾くハミングバード・ピッキング。親指と中指でピックを持ってみよう。

ヴァン・ヘイレン
「ベスト・ライヴ: ライト・ヒス・ライト・ナウ」

サミー・ヘイガー時代のライブ映像。テクニカルかつ表情豊かなエディのプレイをチェックできる。

【様式美系】 レインボーを元祖とし、その後イングヴェイによって確立されたメタル界のいちジャンル。クラシック音楽の要素を大胆に取り入れ、メロディアスかつドラマティックなサウンドを聴かせる……って、もはや常識!